

## 【予防・復帰】

## (事例名)

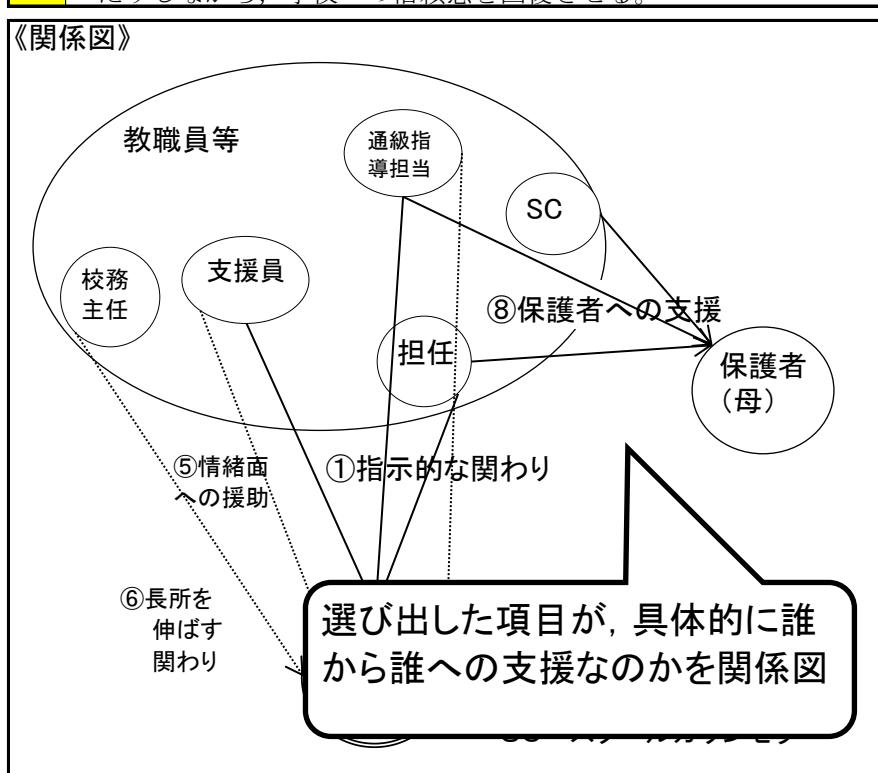
## 出席状況等

出席状況は、おおむね良好である。夜眠れないときは、家に帰らなければならず、授業中、立ち歩いたり、教室を出たりする。

児童生徒の出席状況を具体的に記述し、現在までの状況を把握する

児童生徒の特性		児童生徒をとりまく環境	
気になるところ	生かしたいところ	気になるところ	生かしたいところ
<ul style="list-style-type: none"> <li>全校集会など人がおおぜい集まる場所に参加できない。</li> <li>授業中、友達にしつこく関わり、相手が怒ると暴力を振るい、自分で止めることができない。</li> <li>自己評価が低い。</li> <li>話し言葉での表現力が下手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>おおぜいの人が集まる場所に抵抗を示すが、行事などに参加したい気持ちはある。</li> <li>地域のスポーツチームに所属し、厳しい練習に参加している。チームの仲間のことが好きであり仲よくしたい気持ちはある。</li> <li>物を作る仕事に興味がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>父親が厳格なため、母親は本人の問題について父親に相談しないことが多い。</li> <li>本人が乳幼児期に、母親は周りと上手くコミュニケーションを取りやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人は父母の考えを素直に聞き、特に母親を慕っている。</li> </ul>
児童生徒自身の持ち味・特性などを、「気になるところ」と「生かしたいところ」に分けて整理する		児童生徒の「気になるところ」と「生かしたいところ」を家庭・学校・その他と生活の環境ごとに分けて整理する	

本人理解 早期対応 心理的な安定を図る関わり 自己肯定感の育成	教育的支援項目		見立て	方針	児童生徒の置かれている状況やその背景、要因の理解を基にした対応方針や支援策を検討する
	A児童生徒	B保護者			
	①指示的な関わりや介入、枠付け	②学習支援		I 行事に参加したい気持ちはあっても、過敏性や生ぬけた／つかない気持ちが強いため、大変な状況ではないか。 II 母親の学校への不満や、母親の行動が及ぼしているのでは	I 授業や行事の参加を積極的にさせ、学校生活の中で、自信をもつて過ごせる機会を増やす。 II 母親の気持ちを共感的に捉えたり、学校の方針や本人の取組の様子を定期的に伝えたり、SCによるカウンセリングの場を設定したりしながら、学校への信頼感を回復させる。
	③社会性の育成	④進路・適性・キャリア			
	⑤情緒面への援助	⑥長所を伸ばす関わり			
	⑦保護者との協働	⑧保護者自身への支援			
	⑨支え合う関係づくり	⑩いじめへの対応			
「見立て」や「方針」を検討する際、14の教育的支援項目に焦点を当てて検討する					
	⑪いじめへの対応	⑫心の健康づくり			
	⑬自己肯定感の育成	⑭二次障害への対応			



はたらきかけの実際		
誰が誰に	どんなことをしたか	どんな様子か
担任 ↓ 本人	<p>《①指示的な関わりや介入、枠付け》 一斉授業では、立ち歩いたり、担任や級友の言葉を茶化したりして、ほとんど参加できないので、個別課題を与えた。</p>	立ち歩きが減り着席できることが増えていった。
通級指導担当 ↓ 本人	<p>《①指示的な関わりや介入、枠付け》 学習発表会や運動会の練習には参加できないが、本番にはきちんと参加したいという気持ちがあるので、練習の進み具合を伝えたり、シミュレーション練習をさせたりして本番に備えさせた。1週間ごとのスケジュール表で、所属学級の授業への参加具合をポイント制にして表し、参加の様子を褒めたりして、励みにさす。 《③社会性の育成》 静かで落ち着いた環境で個人学年児童とのペア学習、同学年児童とも取り組ませ、人と良好な関係が保てることを意識させた。気持ちを共感的に受け止め、想像して代入することで、気持ちを言葉で伝えられるように練習させた。</p>	<p>安心して過ごせる場所ができ、活動の幅が広がった。 最初は、友達をばかりにしたり、自分がゲーリー特に効果のあった支援項目や関係図を基に、具体的にどのような支援がなされ、どの様に変容していくのか実際の記録を記述する</p>
支援員 ↓ 本人	<p>《①指示的な関わりや介入、枠付け》 学習発表会や運動会の練習と一緒に見学したり、カメラやビデオで撮影させたりした。撮影したものでイメージトレーニングをした。 《⑤情緒面への援助》 教室に入れないときに、別室で話を聞いたり、授業内容を説明したり、折り紙などをさせたりして、落ち着いて過ごせるようにした。</p>	<p>学習発表会や運動会に参加して演技することができ、自信につながった。 自分の主張を聞いてもらうことで、落ち着いて過ごせる時間が増えていった。</p>
校務主任 ↓ 本人	<p>《⑥長所を伸ばす関わり》 校内の修膳作業などを一緒にを行い、物を大切にすることや学校のために貢献していることを意識付けさせた。 学校ホームページに記事をアップさせるなど、学校の一員として活躍する場を与えた。</p>	自己評価を高めるのに役立った。
担任・ 通級指導担当 ↓ 母親	<p>《⑧保護者自身への支援》 定期的に母親と面談し、母親の本人への思いを共感的に聞いた。本人ががんばって取り組んでいることの内容や今後の方針などを伝え、本人が授業に落ち着いて参加している様子を母親に参観してもらって、学校への信頼感を回復できるようにした。</p>	母親が教師を信頼することで、家庭でも進んで学習に取り組むようになり、学習への自信につながった。
SC ↓ 母親	<p>《⑧保護者自身への支援》 母親の思いを傾聴的聞くことで、心の安定が保てるようにした。</p>	母親に安心感が生まれ、本人への対応にゆとりが生まれていった。

### 特に効果があったと考えられるポイント

#### 《①指示的な関わりや介入、枠付け》

刺激が少ない通級指導教室で、課題に取り組ませたり、自己表現の仕方を練習させたりすることで、気持ちの安定を保たせることができた。本人の特性に配慮し、大きい集団に入って活動することを無理強いせず、段階的に取り組ませることで、最終的には、学習発表会や運動会などの行事にも参加させることができた。達成感を味わわせることが自信をもたせることにもつながった。

#### 《⑧保護者自身への支援》

孤立しがちな母親の本人や学校に対する気定期的に伝えることで、母親の教師や学校へ復するにつれ、母親の気持ちのゆとりが本ことが増えていった。

特に効果のあった支援についてのポイントをまとめ、考察し、振り返りや新たな支援策の検討